

教育研究業績書

2016年10月01日

所属：健康・スポーツ科学科

資格：准教授

氏名：小柳 好生

研究分野	研究内容のキーワード
スポーツ医学、アスレティックトレーニング	パフォーマンス向上、スポーツ外傷・障害予防、コンディショニング
学位	最終学歴
博士（医学）、教育学修士、体育学士	筑波大学大学院 体育研究科 修士課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト第6巻 予防とコンディショニング	共	2007年09月	財団法人 日本体育協会	石山修盟, 勝真理, 荒木テツヤ, 杉山ちなみ, 岡澤祥訓, 和久貴洋, 齋藤実, 小柳好生, 曾我部晋哉, 小粥智浩, 岡田純一, 尾縣貢, 鹿倉二郎, 増田雄一, 山本利春, 池田誠剛, 宮崎善幸, 岩垣光洋, 小西由里子, 白木仁 コンディショニングの把握と管理の方法について概論を著した。具体的な方法のひとつとして、ストレッチの種類と方法および効果について解説し、その実際について著した。また、競技種目別のコンディショニングについて、バレーボールに関して解説した。
2. 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト第1巻 アスレティックトレーナーの役割	共	2007年03月	財団法人 日本体育協会	河野一郎, 馬場宏輝, 鹿倉二郎, 福田崇, 片寄正樹, 妻木充法, 山本利春, 小林寛和, 石山修盟, 村木良博, 黒澤洋治, 岩本広明, 皆川彰, 早川直樹, 増田雄一, 加藤修, 白木仁, 福林徹, 尾縣貢, 小柳好生, 溝口秀雪 アスレティックトレーナーの役割として、競技者のコンディショニングに関するデータの管理があり、その必要性と方法について著した。
3. 公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目 I	共	2005年02月	財団法人 日本体育協会	佐々木秀幸, 清水隆一, 蒲生清明, 佐伯年詩雄, 清水諭, 長谷川裕, 尾縣貢, 坂本静男, 大庭治雄, 福林徹, 橋本通, 小柳好生, 樋口満, 阿部征次, 小林寛道, 杉原隆, 鳥居俊, 石塚浩, 笠原一也, 水上博司 スポーツ活動中の傷害発生時に行う適切な処置としてのRICE処置について解説し、その方法について著した。
4. CKCエクササイズ	共	2003年04月	有限会社 ナップ	山本利春, 中村千秋, 渡部賢一, 小柳好生 上肢のリハビリテーションやパフォーマンスの向上に用いることができる一連のクローズドキネティックチェーン (CKC) エクササイズについて著されたものを翻訳した。
5. アスレティックトレーナーテキスト (II) -アスレティックトレーナー養成講習会教本	共	2002年07月	財団法人 日本体育協会	渡會公治, 下條仁士, 鳥居俊, 横江清司, 河野一郎, 本間三和子, 船渡和男, 村木良博, 白木仁, 片寄正樹, 鹿倉二郎, 石山修盟, 和久貴洋, 小柳好生,

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
				大久保衛, 結城匡啓, 古川拓生 コンディショニングの手法の一つであるストレッチングについて概説し、その実際について著した。
2 学位論文				
3 学術論文				
1. 陸上競技の種目特性が大学女子選手の膝関節固有感覚に及ぼす影響(査読付)	単	2013年10月	健康運動科学	大学女子陸上競技選手の膝関節運動覚および位置覚の測定を行った。運動覚においては、跳躍種目群が他種目群に比較して、有意に優れた値を示した。トレーニングにおいて、プライオメトリックスが高い割合で占めることが、跳躍種目の種目特性のひとつである。身体的特徴、筋力、競技歴等には有意差は認められなかった。したがって、種目特性が運動覚に影響していることが示唆された。
2. 体育系女子大学生の科目と資格に対するニーズ	共	2012年3月	武庫川女子大学紀要 人文・社会学編	本学科における専門科目と取得可能資格に対する学年進行による意識の違いを分析し、教育内容再検討のための手がかりとなる資料を得るために行った。その結果、栄養?医学?コーチング系は学年が進行しても重要な位置づけとなっており、健康や社会といった、競技思考ではない科目への興味が増加傾向にある。また、教員免許取得を重要視する傾向に変化はないが、その他の資格については、主体的に選択していることが明らかとなった。
3. スポーツ選手での湿布薬の副作用に関する一考察	共	2008年03月	武庫川女子大学紀要 自然科学編	田中繁宏, 相澤徹, 今井亜依, 渋谷理恵, 若森真樹 湿布薬は一般人はもちろん、スポーツをする人にとって品会に使用される有用な外用剤である。今回スポーツ選手で、比較的よく知られた日光を浴びることによる副作用を経験した。これらの症例報告を含め、解熱鎮痛剤の使用について考察した。
4. 授業「キャンプ実習」に関する研究(4) -4か年の基礎研究と総合評価-	共	2008年03月	武庫川女子大学紀要 人文・社会学編	中村哲士, 保井俊英, 會田宏, 中西匠, 永田隆子, 田中繁宏, 西坂珠美, 松岡紗也香, 野老稔 指導者養成としての授業「キャンプ実習」のあり方の解明について、正確で適切な評価方法の構築と、縦断的・横断的な調査・研究の蓄積が必要であると考えを行った。 第4報となる今回は、事前教育の時間・回数増加を試み、そのことによる効果の把握も同時に行った。
5. 授業「キャンプ実習」に関する研究(3) -3か年の基礎研究比較と総合評価-	共	2007年03月	武庫川女子大学紀要 人文・社会学編	中村哲士, 保井俊英, 會田宏, 小柳好生, 松本裕史, 田中繁宏, 四元美帆, 西坂珠美, 野老稔 指導者養成としての授業「キャンプ実習」のあり方の解明には、正確で適切な評価方法の構築と、縦断的・横断的な調査・研究の蓄積が必要である。第3報となる今回は、3か年の基礎的資料集による比較検討により、最終的総合評価を得ようとするものである。
6. 立位姿勢での大腿四頭筋セッティングの検討 -内側広筋筋活動に着目して-	共	2007年03月	関西臨床スポーツ医・科学研究会誌	得能三貴, 小柳好生, 相澤徹, 田中繁宏, 山本嘉代, 安田良子 大腿四頭筋セッティングは、膝関節傷害に対する術後早期より用いられるトレーニングである。本研究では、内側広筋筋活動に着目し、Open Kinetic Chain と Closed Kinetic Chain でのより効果的な方法について検討した。
7. 大学女子バスケットボールチームの練習計画と傷害発生について -2年間の調査より-	共	2006年11月	スポーツ傷害フォーラム会誌	山本嘉代, 小柳好生, 坂井和明, 中村真理子, 四元美帆, 相澤徹, 田中繁宏, 野老稔 大学女子バスケットボールチームの練習内容と傷害発生状況を2年間にわたり調査し、それらの関連を明らかにすることを目的とした。
8. 授業「キャンプ実習」に関する研究(2) -2か年の基礎研究比較-	共	2006年03月	武庫川女子大学紀要 人文・社会学編	中村哲士, 保井俊英, 會田宏, 小柳好生, 田中繁宏, 永戸久実, 四元美帆, 野老稔 学外実習は、個人の体験だけを重視した科目ではなく、学生の能力向上のために授業であることが必然である。 学生の能力変化を正確・適切に測定できる評価方法を構築するべく研究を行った。2か年の基礎的資料収集による比較検討から、2実習間に存在する普遍部分の解明を試みた。
9. Increased serotonergic innervation of lumbosacral motoneurons of rolling mouse Nagoya in correlation with abnormal hind limb extension.	共	2006年	Anatomia Histologia Embryologia	Y. Koyanagi, K. Sawada, H. Sakata-haga, Y. -G. Jeong, Y. Fukui ローリングマウス(RMN)における後肢の運動障害に対する5-HTの関与を明らかにするために、RMNの脊髄前角における5-HT作動性神経支配について検討した。5-HTによる腰仙髄運動ニューロンへの興奮性調節異常がRMNにおける後肢の運動障害を引き起こしている可能性が示唆された。
10. 授業「キャンプ実習」に関する研究(1) -参加者の意識・行動	共	2005年03月	武庫川女子大学紀要 人文・社会学編	中村哲士, 保井俊英, 會田宏, 小柳好生, 田中繁宏, 永戸久実, 四元美帆, 野老稔

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
・学習・達成レベルの基礎的検討 ー				
11. 若年女性における主観的健康感と健康行動セルフ・エフィカシーとの関連	共	2005年03月	武庫川女子大学紀要 人文・社会科学編	スポーツ指導者養成機関における、養成課程に存在する組織、指導者、プログラム、施設・設備、実習生にかかわる質的向上の問題解決を目的とした。体験の増量方法と知識の振幅方法が学習スタイルの課題と推測された。 松本裕史, 坂井和明, 野老稔, 田中繁宏, 相澤徹, 會田宏, 小柳好生, 中村真理子, 四元美帆 主観的健康感に影響を与える心理的要因の1つとして、健康行動セルフ・エフィカシーを検討した。女子大生においては、望ましい健康行動を習慣的に行うことができるという見込み感は、主観的な健康状態に肯定的な影響を与えることが示唆された。
12. 流行性耳下腺炎と化膿性耳下腺炎の2例に関する一考察	共	2005年03月	武庫川女子大学紀要 自然科学編	田中繁宏, 相澤徹, 四元美帆, 小柳好生, 野老稔 流行性耳下腺炎はパラミクソウイルス属のムンプスウイルスによるもので小児によくみられる全身性の疾患である。今回、青春期発症の化膿性耳下腺炎と成人発症の流行性耳下腺炎を報告した。
13. 女性の運動能力の評価と生活習慣病指標との関係	共	2005年03月	武庫川女子大学 生活習慣病オープン・リサーチ・センター 研究成果報告書	田中繁宏, 相澤徹, 會田宏, 小柳好生, 野老稔 女子大生の体組成、運動能力、生活習慣病指標を多面的に測定し、基礎的データの蓄積を目的として行った。
14. 呼吸器疾患での珍しい症例	共	2004年03月	武庫川女子大学紀要 自然科学編	田中繁宏, 相澤徹, 四元美帆, 小柳好生, 野老稔, 若山公作, 玉垣芳則 胸痛で発症したアレルギー性気管支肺アスペルギルス症 (ABPA)、肺炎を併発したミコプラズマ肺炎、肝硬変に合併した低酸素血症の症例を報告した。
15. 体育系女子大学におけるスポーツ傷害経験者の実態	共	2003年11月	スポーツ傷害フォーラム会誌	四元美帆, 相澤徹, 田中繁宏, 村川増代, 小柳好生 体育系女子大学に通う学生が、どのようなスポーツ傷害を経験していたのか、その実態を調査・検討した。
16. 大学教育活動における危機管理の研究 ー危機管理構築のためのマニュアル作成ー	共	2003年10月	武庫川女子大学教育研究所 研究レポート	野老稔, 相澤徹, 橋爪静夫, 田中繁宏, 伊達萬里子, 會田宏, 小柳好生, 中村真理子 生涯スポーツや競技スポーツの一翼を担う、大学教育におけるスポーツ活動中の危機管理体制に注目し、現状認識に基づく危機管理システムの構築研究を試み、その結果を報告した。
17. A case of a solitary mass shadow caused by Mycoplasma pneumoniae	共	2003年03月	武庫川女子大学紀要 自然科学	Shigehiro Tanaka, Toru Aizawa, Miho Yotsumoto, Yoshio Koyanagi, Minoru Tokoro, Kazuo Hirata, Hiroshi Fujiwara, Shigeo Fujimoto 胸部X線撮影による大量の影の診断は一般的な臨床問題である。影の原因として腫瘍や肺炎、連鎖球菌性肺炎などがよく知られているが、マイコプラズマ肺炎や感染性肺炎に関しては、一貫した病理所見がない。胸部X線で単独の大量の影が映った症例を報告する。
18. アスレチックリハビリテーションの実践の施策 ー病院、地域スポーツ施設、体育系大学との連携ー	共	2002年11月	スポーツ傷害フォーラム会誌	高野賢一郎, 下津浦遊, 谷本武晴, 内山匡将, 住田幹男, 中田研, 吉田竹志, 多田浩一, 佐伯良子, 渡部幸栄, 相澤徹, 小柳好生, 川上晃司 アスレチックリハビリテーション実践を目指し、地域病院、診療所、スポーツ施設との連携を行ってきた。そこでの問題は、知識と技術のばらつきや、個人情報管理の管理体制、連絡方法であった。これらの問題を解決するための活動と施策を行ったのでその方法を報告した。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. パフォーマンスレベルと動的バランス能力との関連性	共	2011年9月	台66回日本体力医学会大会	競技スポーツやリハビリテーションの現場において、運動能力を評価することは重要である。しかし、動的バランス能力についての報告は少ない。片脚ドロップジャンプ着地後の足圧中心軌跡長は、運動群で非運動群に比べて優位に小さい値をしめした。
3. 総説				
1. IOC Advanced Team Physician Course報告記	共	2012年2月	臨床スポーツ医学	2010.4 コルシカ島で開催された IOC Advanced Team Physician Course の様子をアスレティックトレーナーの立場から報告した。
2. 種目特性を踏まえたテーピングテクニック バレーボール ブロック時の突き指の再発予防	単	2009年5月	臨床スポーツ医学	バレーボール競技中に多発する突き指に対するテーピングテクニックを紹介した。
3. 画像による動作分析 ジャンプ着地, ステップ動作	共		臨床スポーツ医学 臨時増刊号	映像を用いた動作分析には「動きを測る」とこと「動きを知る」とことの要素が含まれる。映像から得られた情報を、スポーツ現場で活用することは、競技力向上に有益であるばかりでなく、傷害予防にも役立つ。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3. 総説				
				立てることができる。本稿では、ジャンプ着地とステップ動作について著した。
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				
1. 文部科学省科学研究費基盤研究（C）新規	共	2004年		女子アスリートの筋力トレーニングにおける成長ホルモン分泌の影響
学会及び社会における活動等				
年月日	事項			